

(19)日本国特許庁 (JP)

(12)公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平4-109247

(43)公開日 平成4年(1992)9月22日

(51)Int CL'

F 16 H 3/70  
9,76

登録記号

序内登録番号  
9030-3 J  
9130-3 J

P 1

技術表示箇所

## 審査請求 未請求 部項の数 2(全 2 頁)

(21)出願番号

実開平4-12385

(71)出願人

株式会社ハーモニク・ドライブ・システムズ

北水郡川辺大井1丁目49番10号

(22)出願日

平成3年(1991)9月7日

(72)考案者

伊藤 喬治

長野県南安曇郡豊科町大字豊科4492-29

(74)代理人

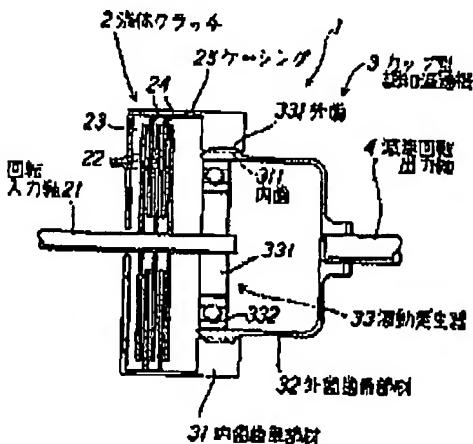
弁理士 橋沢 忠郎

(54)【考案の名称】トルク可変型無段变速機

(57)【要約】

【目的】速比を無段階に変更可能であると共に、速比に応じて伝達トルクを増減させることが可能となったトルク可変型無段变速機を実現すること。

【構成】減速機1は、流体クラッチ2と、筒車式のカップ型調節減速機3から構成されている。流体クラッチ2の回転出力要素であるケーシング25は、減速機3の側の筒車内側部材31と一緒に回転するよう結合されている。また、回転入力軸21は、減速機3の減速発生器33と一体回転するよう結合されている。流体クラッチ2のすべり面、操作するとクラッチ接觸度を調整することによって、減速機3の減速比を1/Rとする。且備け上の減速比を1:1から1:1/Rまで無段階に変更できる。また、これに伴って、伝達トルクの増減も変更される。



{2}

西固平4-109247

### 【实用新品种育成の動向】

【講演題1】 回転入力変換と回転出力変換との間のすべり量が可変となっているクラッチ構造と、この無脱離速減における前記回転入力変換および回転出力変換のうちの一方に対して、回転入力変換および速減回転出力変換のうちの一方が連結されている変速比固定型の差速構とを有することを特徴とするトルク可変型無段変速機。

【第4回第2項】 第4回第1において、前記クラッチ機械は流体クラッチであり、前記変速比固定型の変速器は調節変速器であり、この前記変速機は、環状の環状部材と、可動性の環状部材と、この可動性の環状部材を半径方向に調めて前記剛性的の環状部材に対して嵌合する箇所で構成させ、これららの嵌合位置を円周方向に各歯させることによって、これらら環状部材の間に軸対回転を発生させるねじ効果原理から構成され、前記流体クラッチの出力要素が、前記調節変速機の剛性的の環状部材、可動性の環状部

村および強制発生器のうちの一つに対して一体駆動するようによねられていることを特徴とするトルク可変型無効走行装置。

### (問題の簡単な説明)

【図1】本考案の一実施例に係る速度制御を示す概略構成図である。

〔西洋の世界〕

- 1 . . . 液波機構
  - 2 . . . 離体クラッチ
  - 2 1 . . 回転入力軸
  - 2 5 . . ケーシング
  - 3 . . . カップ留め印記連繩
  - 3 1 . . 内齒齒車部材
  - 3 2 . . 外齒齒車部材
  - 3 3 . . 放熱發生器
  - 4 . . . 液波凹版出力軸

四

